

# 経営比較分析表（令和6年度決算）

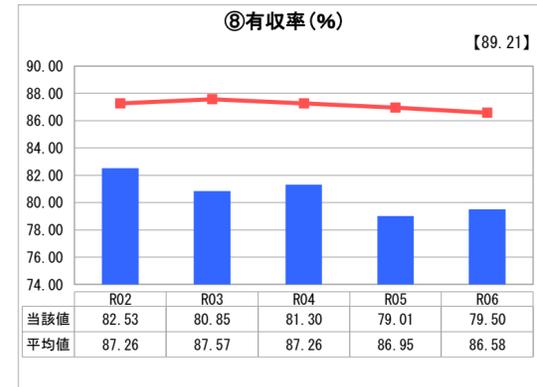
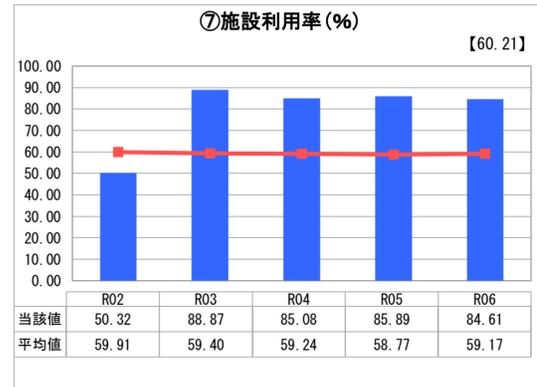
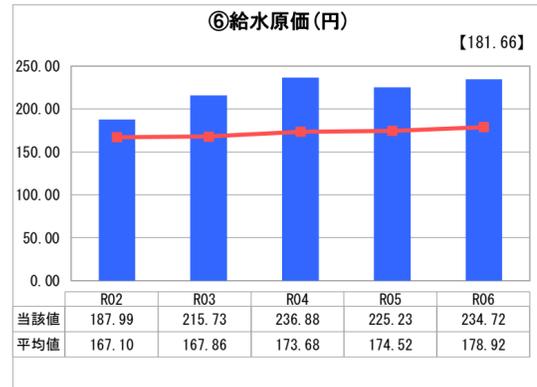
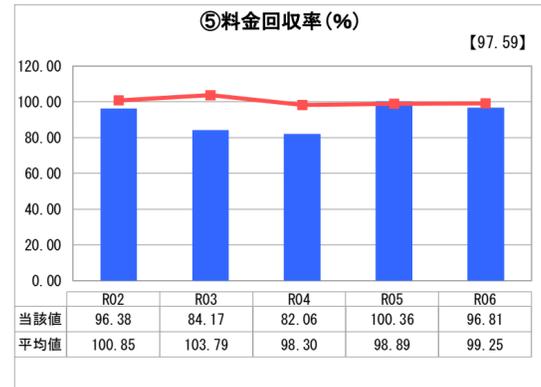
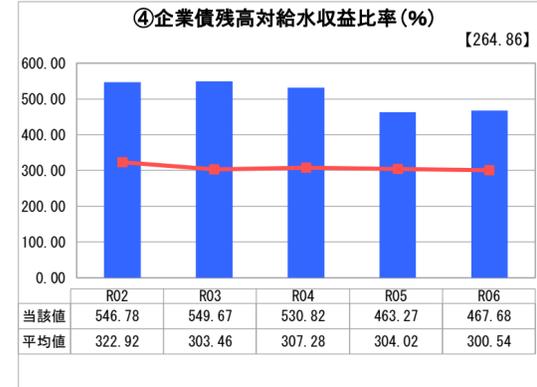
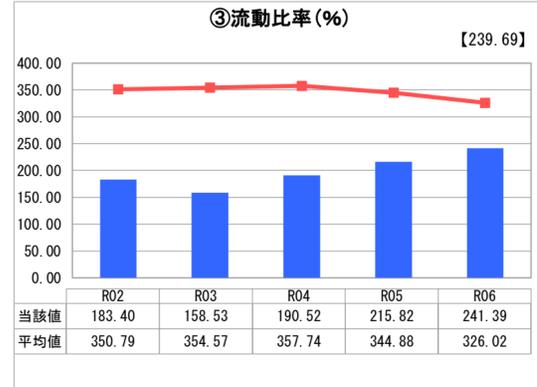
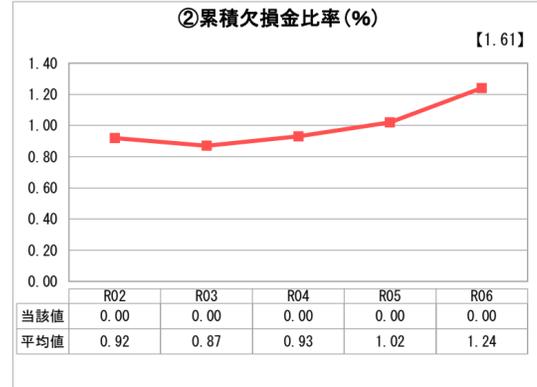
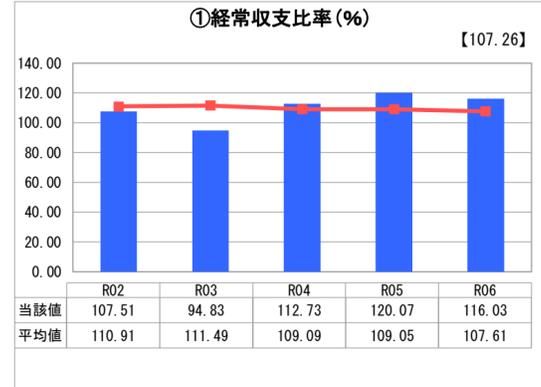
北海道 岩見沢市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A4	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)	
-	56.64	99.93	4,331	

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
74,204	481.02	154.26
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
73,513	307.01	239.45

<b>グラフ凡例</b>
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和6年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 分析欄

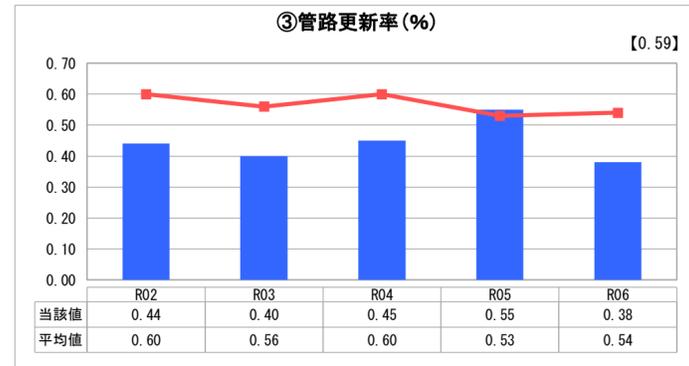
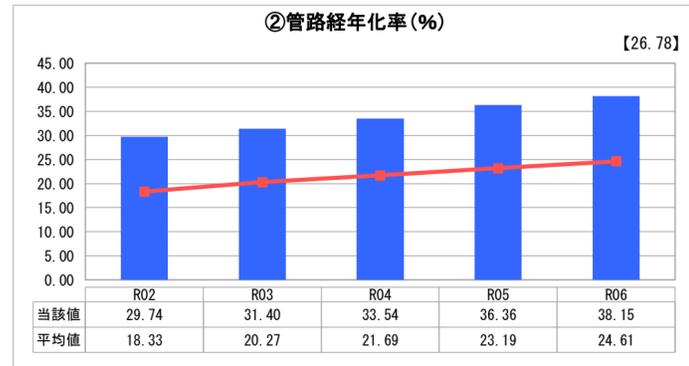
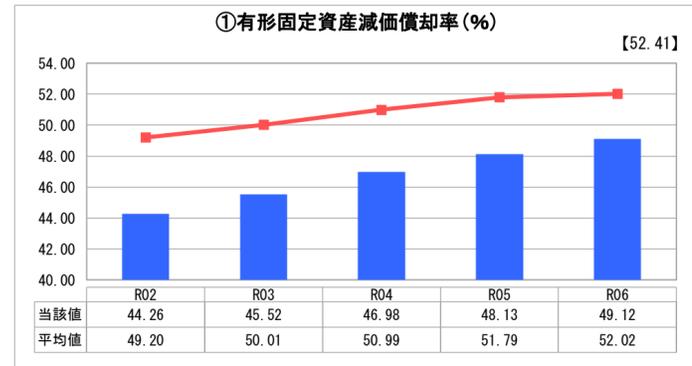
### 1. 経営の健全性・効率性について

- ① 経常収支比率は、令和4年度に類似団体平均を上回り、100%以上となっていることから、収支は健全な水準にあります。
- ② 累積欠損金比率は、累積欠損金が発生していないため0%となり、健全な状態にあります。
- ③ 流動比率は、類似団体平均を下回っているものの、100%以上となっていることから、短期債務に対する支払い能力には問題ないものと考えられます。
- ④ 企業債残高対給水収益比率は、類似団体平均を上回っており、前年度と同水準で推移しています。
- ⑤ 料金回収率は、類似団体平均を下回り、令和6年度は給水に係る費用のうち、3.19%を給水収益以外の収入で賄うこととなっています。
- ⑥ 給水原価は、近年上昇傾向にあり、有収水量の減少が続く中、老朽化した施設・設備の維持管理経費が増加していることが上昇要因の一つです。
- ⑦ 施設利用率は、供給元の施設のダウンサイジングを行ったことにより、令和3年度から施設利用率が上昇しています。
- ⑧ 有収率は、類似団体平均を下回っており、流量計の設置や漏水調査を実施するなど、維持に向けた取り組みを行っています。

### 2. 老朽化の状況について

- ① 有形固定資産減価償却率は、類似団体平均を下回っているものの、老朽化は進んでいます。
- ② 管路経年化率は、類似団体平均を上回り、耐用年数を経過した管路が多くなっています。
- ③ 管路更新率は、令和6年度では基幹となる送水管の更新を重点的に進めたため、配水管の管路更新を進めた前年に比べ、低下しました。

## 2. 老朽化の状況



## 全体総括

本市の水道事業は、水需要の減少とともに料金収入が減少傾向にある中で、老朽化が進む基幹施設の更新、改良及び災害対策に対する投資の必要性が高まっており、経営環境は今後ますます厳しくなることが予測されます。

そのため、岩見沢市地域水道ビジョン兼経営戦略に基づいて、健全かつ安定的な経営が図られるよう努めてまいります。